

バイオマス発電事業



高松市東部下水処理場では、平成28年2月1日より、バイオマス発電事業を開始いたしました。

東部下水処理場は、高松市で一番大きな下水処理場ですが、日々下水を処理する中で、メタンガスを主成分とする消化ガスが発生しています。これまでは、この消化ガスを消化槽（発酵槽）の加温や管理棟の冷暖房に有効利用していました。本事業により、これからは消化槽（発酵槽）の加温と同時に、発電することも可能となり、発電した電気を電力会社に買い取ってもらい、その収入を下水道事業の維持管理費にあてます。

バイオマス発電事業は、再生可能エネルギーの有効利用に貢献しています。

概要

整備事業期間

平成26年度～平成27年度

整備事業費

単独事業 約7億7千万円（税込）

設備機器仕様

定格出力25kW×20台 500kW

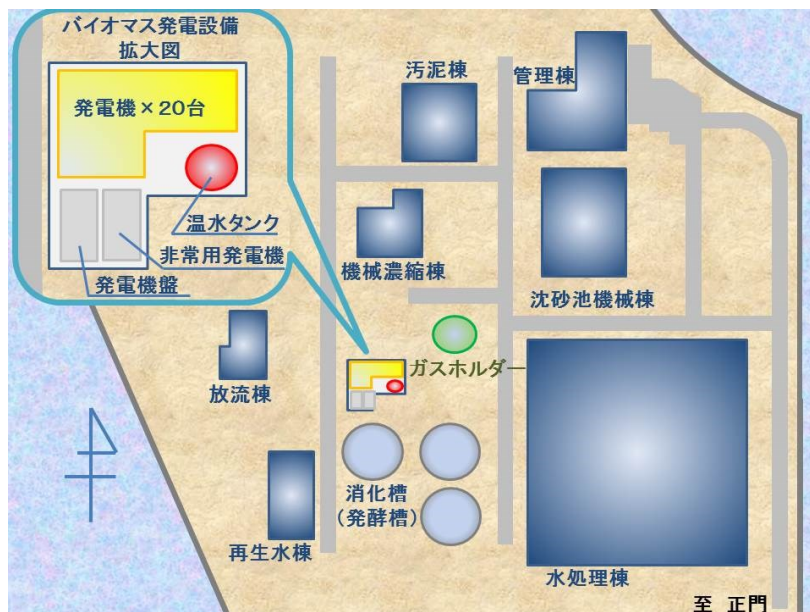
想定年間発電量

約161万kWh

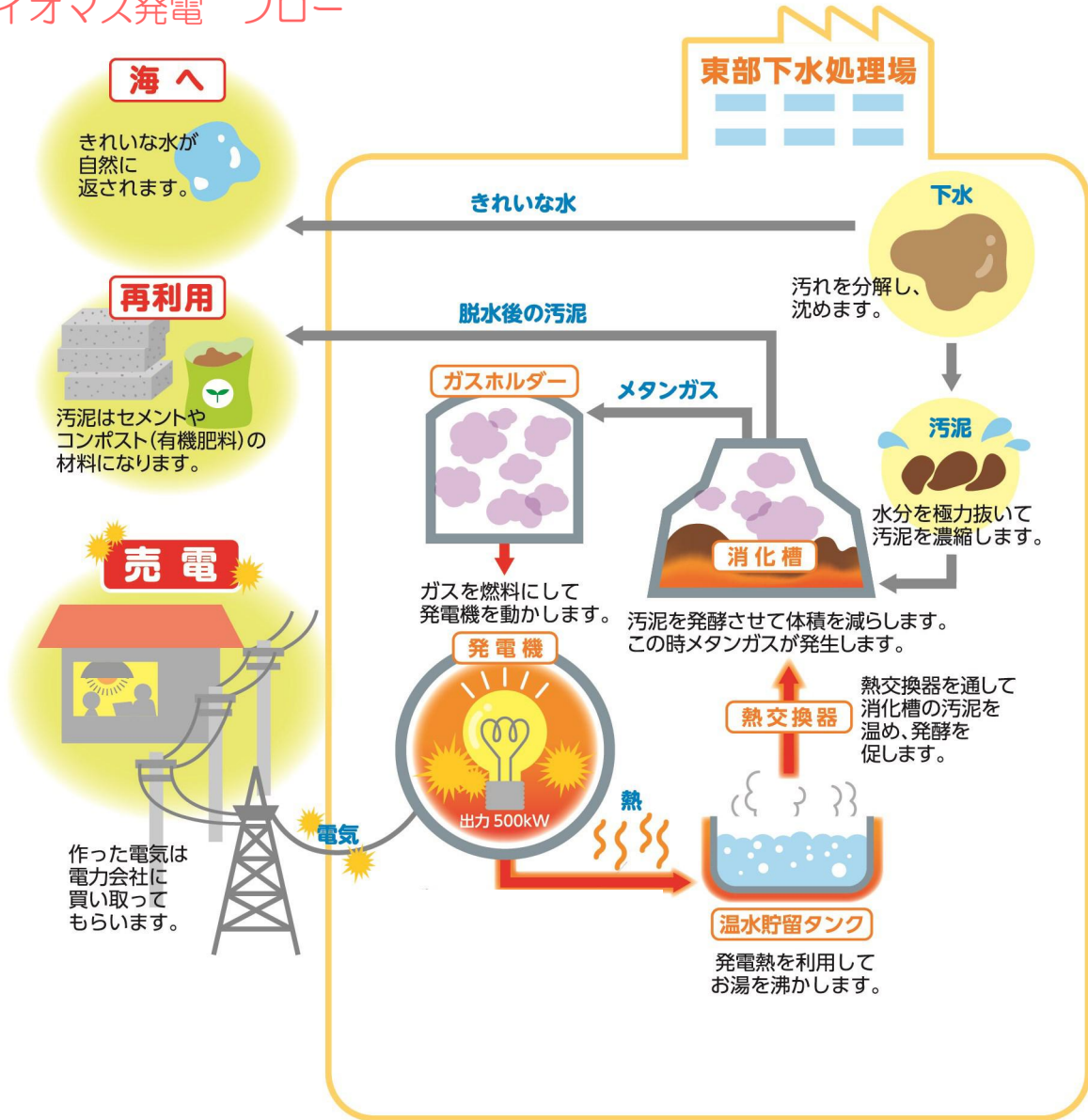
想定年間売電額 ※1kWh当たり39円の場合

約6,200万円（税抜）

バイオマス発電設備 位置図



バイオマス発電 フロー



消化槽（発酵槽）

下水処理過程で発生する汚泥を発酵させるためのタンクです。



ガスホルダー

汚泥を発酵させる際、消化ガスが発生します。その消化ガスを貯留するためのタンクです。



発電機

消化ガスを利用して、発電を行うと同時に、発電熱を利用して水を温めます。



温水貯留タンク

発電機により作られた温水を貯留するためのタンクです。温水を利用して、消化槽の汚泥を加温し、効率よく発酵させます。

お問い合わせ

高松市都市整備局下水道部 下水道施設課 東部下水処理場
〒761-0113 高松市屋島西町2366-6
TEL 087-843-8580 FAX 087-843-2622